

活動紹介!

こども絵画造形 ちゅーりっぷ教室

今年6月から本館でスタートしました。教室は清瀬にもあって、13年目になるそうです。3歳から小学生までを対象とした絵画造形教室です。工作と絵画をおりませたオリジナルのカリキュラムで、0から1を生み出すクリエイティブな力を身につけます。

現在は体験教室期間で、来月から本格的に教室が始まるそうです。是非、のどきにいらしてください。



7月の催しから

- 7(日)
 - ・ 朋友・都立高校説明会
- 11(木)
 - ・ 久留米ダンス連盟発表会
- 14(日)
 - ・ モモピア / 教室発表会
- 15(月)
 - ・ 熱海ピア / 教室発表会
- 20(日)
 - ・ 高尾バイオリンコンサート
 - ・ くるめザコメティ
- 21(土)
 - ・ 松本ピア / 教室発表会
- 23(火) ~ 26(金)
 - ・ Spark 東久留米
イングリッシュキャンプ
- 27(土)
 - ・ スクエアダンスパーティ
- 28(日)
 - ・ 合唱団そよかせコンサート
 - ・ くるめザコメティ

これらはあくまでも予定ですので変更もございます。一般の方の参加の可否等、詳細は主催者までお尋ねください。



会館事務室から



今月の話題 — 漬物

ある時はご飯のお供に。またある時はお茶請けや酒の肴に。漬物は日本人の食卓には切っても切れないものです。と言いたところですが、時の流れの中で、食生活も変化し、それが漬物にも及んでいます。農水省の統計では、ここ20年の間に漬物の消費量は3~4割も減ってきているとか。多くの家が糠床や漬物樽を置いて、その家自慢の漬物を作って毎日のように食べていたことは、はるか遠い昔話になりました。とはいえ、漬物が嫌いという人はあまり聞いたことがありません。米を食べる量が減ったということで漬物を食べる機会も減ったということでしょうか。もともと保存食として必要に迫られて作られてきた食べ物です。その意味合いは昔とは少し変わってきたと言っても、日本人が漬物好きだということは、今も昔も同じような気がします。

日本各地にはその土地の特産野菜を使った漬物があって、その種類も豊富で郷土の味を売り物にしています。観光地の店先には必ずと言ってそうした漬物が並び、お客さんも好んで土産に買っていく風景は日常的です。やはり、漬物は日本人の生活にすっかり馴染んでいる、何かほっとする食べ物なのでしょう。

今年6月、漬物を製造販売する場合、営業許可が必要という改正法が実施されました。基準を満たさず、掉衛生管理が行き届かない製造はできなくなります。確かにこれは大切です。ただ、これを機に生産をやめようという業者も多いと言われます。漬物は日本の大切な食文化。これが消費の更なる減少にさらに掉(さお)さすことにならないようお願いいたします。

